

# 絶滅危惧植物ミコシギクの保全活動

塩路 恒生（広島大学 技術センター 東広島植物園）  
 稲葉 啓斗（広島大学 総合科学部）、清水 則雄（広島大学 総合博物館）

SHIOJI Tsuneo, INABA Hiroto, SHIMIZU Norio : Maintenance activity of endangered plant “ミコシギク”

## 1. はじめに

ミコシギク（写真1）は、山間の水がよどまない湿地に生育するキク科の多年草です。ミコシギクの名は、大名行列の神輿の檜に花が咲く姿が似ていることからこの名がついたと言われている。別名、ホソバナセイタカギクと呼ばれるように、細長い葉で、茎の長さは1m以上にもなる。日本では、数か所に隔離分布しているのみで、大陸遺存植物として、生物学的に貴重な植物である。環境省RDB（2020年）では、絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されている。広島県の自生地では数年前からシカによる食害を受け絶滅の危機となっていたところ、地元の中学校から広島大学に相談があり、2019年より地域や中学校と連携をしながらミコシギクの保全活動を行っている。今回は、これまでの保全の取り組み内容と成果について報告する。



写真1. ミコシギク（東広島市福富町）

## 2. 活動内容と成果

### (1) 中学生による保全活動

東広島市立福富中学校の文化発表会において、「賀茂台地北部の自然とミコシギク」というタイトルで講演を行った。これが契機となり、2021年度から「探究的な学習」として、中学校においてミコシギクの保全活動に取り組むことになった。中学校からの講師依頼を

受けて、これまで4年間、保全活動の協力を行った。主な活動内容として、2021、2022年度は、個体数調査、開花数調査ならびに個体群への目印の支柱立て、分布マップの作成などを実施した。2023年度は、これまでの活動に加え、宮島自然植物実験所の学生の協力を得て、ミコシギクの標本作りを行った。9月2日には、中学生がミコシギクの保全への取り組みについて発表を行なった。2024年度は、さらに活動が発展し、中学校全体の活動として取り組むことになり7回の活動を行った（写真2）。活動は、4つのグループに分かれて行った。生育域内グループは、例年同様、株数の調査、種の採取などを行った（写真3）。生育域外グループは、中学校における種まき・育苗と栽培マニュアル作りについて検討した。広報グループでは、ミコシギクの保全をテーマにしたポスター製作とミコシギクを使った商品化について検討を行った。活動のまとめグループは、活動の成果を発表するためのスライド作りに取り組んだ。

### \* 茎の本数の遷移

2020年	30本	2023年	188本
2021年	71本	2024年	249本
2022年	187本		



写真2. 全校生徒による授業



写真3. 中学生による生育調査



写真5. 大学による環境調査

### (2) ミコシギクを守る会による保全活動

自生地による保全活動は、2020年から始められ、これまでにシカによる食害を防ぐための防獣柵の設置を3回実施した(写真4)。2022年11月21日、地域住民が主体となりSDGs未来都市東広島推進パートナー宣言制度により「福富のミコシギクを守る会」が発足した。2023、2024年度広島大学「地域の元気応援プロジェクト」に採択され、活動資金を得ることが出来た。得られた資金により、自生地の環境整備、木道作りに取り組むことが可能となった。ミコシギクを地域の資源として活用していくために薫物(お香)作りのワークショップを開催した。



写真4. 守る会による保全活動

### (3) 大学による研究活動

ミコシギクの個体集を増やすことを目的として、自生地における生態的特性を解明するため、2024年度において月1~3回の調査を行った(写真5)。研究の詳細結果については、別途、発表の予定である。

### 3. まとめ

今回の保全活動では、大学関係者の知識と技術、中学校生徒の若い行動力、地域の方々の故郷の想いが上手く融合・連携することによって、安定した株数まで回復することが出来た。課題としては、地域の守る会の永続性、資金の確保が今後の問題である。さらには、広島県内外のミコシギクの生育環境を調査・把握し、保全活動におけるネットワークを構築するとともに、学校連携を継続・強化し、次世代への継承、地域住民のさらなる参画を得られる活動としていきたい。

### 謝辞

本活動を進めるにあたり、広島市植物公園の山本晃弘氏、早稲田大学の大崎壮巳氏、広島大学宮島自然植物実験所の坪田博美博士、ファン＝クイン＝チ氏、中村創氏、弘松瑤希氏、國井秀剛氏、竹内丈氏にご協力頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

### 参考文献

- 1) 奥山星菜ほか(2023) 広島県東広島市福富町における絶滅危惧植物ミコシギクの保全活動の記録, 広島大学総合博物館研究報告 15:51-57
- 2) 北村四郎(1981) キク科. 佐竹義載(編)『日本の野生植物 草本Ⅲ』, 156-235 平凡社, 東京.